

みどりの Gift

[ギフト]

No.

69

緑の栄光
March 2022

FEELINGS OF FOREST

本場のへ木育を発信

第44回全国育樹祭を振り返る



原画：北海道富良野緑峰高等学校1年 川村 凜花さん（令和3年度緑化活動啓発作品コンクール 高校生部の最優秀賞・北海道森林組合連合会会長賞）

豊かな森林を未来に引き継いでいくために

公益社団法人 北海道森と緑の会
理事長

山谷 吉宏



私は、17年間の長きに渡り理事長を務められた堀達也氏の後を継いで、昨年6月より理事長を担っておりますので、引き続き、北海道森と緑の会ともどもご支援・ご協力をお願いいたします。

一昨年から始まった新型コロナウイルス感染症のまん延により、私たちの暮らしは大きく変わり、当会の活動も、街頭募金やイベントの延期・中止など大幅に制限されました。

このような中で、昨年10月に本道で開催された「第44回全国育樹祭」については、コロナ禍で1年延期のうえ、規模を大幅に縮小するとともに、秋篠宮皇嗣殿下をはじめ、道内外の多くのご招待者もリモート参加となるなど大変厳しい状況ではありましたが、緑化推進に取り組む多くの方々が集う、大変実りの多い育樹祭となりました。特に、北海道をはじめ、全国で森づくり活動に取り組まれている緑の少年団の活動発表は、次の世代につながる素晴らしい交流の場となったところであり、関係者の皆様のご尽力に、改めて感謝を申し上げます。

林業・木材産業を取り巻く環境は、昨年、海外における木

材需要が増加したことによる「ウッドショック」などにより、道産木材に注目が集まり、活気が戻ってきたのではないかと感じられますが、このような好機をしっかりと捉えていくためには、やはり林業・木材産業を担う人材の確保が重要であります。

一昨年に開校した北の森づくり専門学院（通称：北森カレッジ）を本年3月に卒業した1期生34名は、道内の様々な地域で、林業・木材産業の担い手として活躍されることでしょう。丸2年間、コロナ禍の厳しい状況の中で修学した知識・経験を存分に発揮していただきたいと思います。

今、地球の未来に向けて二酸化炭素の削減が急務となる中で、森林に対する期待は、これまで以上に高まってきているものと感じております。

北海道森と緑の会は、森や木、緑の大切さが道民の皆様にも広く理解され、多くの方々で森林づくりに参加・協力して、豊かな森林を未来に引き継いでいくことができるよう、皆様とともに力を尽くしてまいります。

皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

巻 頭 に よ せ て

子ども達と緑豊かな自然林に感謝

河川愛護団体リバーネット21ながぬま
会長

山本 隆幸氏



ウー、ウー、ウー、あれ、何のサイレンかな、火事かなー、水害かなー。「ピンポンパン、長沼町からのお知らせです。只今のサイレンは水防団員召集のサイレンです」。また水害かよー。

私どもの街、長沼町は、春には雪解け水で、夏には梅雨前線、秋には台風でと水害に見舞われ、明治39年の大水害から現在まで130年余りで、大きな水害だけで70回を数え、約70名の方が尊い命を落とし、水害で災害救助法が4回適用されております。長沼の開拓の歴史は水害との戦いであつたと言っても過言でないくらい水害の多い街です。

このような水害常襲地に生まれ育った有志が2002年に集い、「長沼から水害を無くしたい。もし水害になったら自分の命は自分で守る」を合言葉に、「河川愛護団体リバーネット21ながぬま」を結成しました。

私どもの団体が結成当時から取り組んでいる事業の一つに、「小鳥のさえずりが聞える河畔林植樹会」と銘を付けた植樹会の開催があります。植樹法は「生態学的混播・混植法」という自然林の再生を目指す植樹方法です。2006年からは、緑の里親として近くの馬追山で木の種を採り、この種をまき、水やり、草むしりなどの育苗管理、そして育った苗をピニールポットに植え替える床替えをし、植樹会の時には自分達で育てた苗木で植樹をしています。この一連の作業を、

地域の子供達と一緒に20年間続けてきました。成長は自然の選択に任せることでそれぞれの土地に合った植生を復元し、地域住民や子ども達も参加することで町おこしや環境教育にも効果をあげていると自負しております。

また、私どもの会独自で、種採り・種まき・育苗管理・植樹・経過観察の5項目を5年間以上続けた子どもには、この植樹法の考案者である前北海道科学大学教授岡村俊邦先生から認定証が授与される「ジュニアグリーンマスター」と言う認証制度をつくり、これまでに8名の子どもに認定証が授与されています。

昨年は第44回全国育樹祭が北海道で開催され、当会の子ども達も「緑の少年団活動発表大会」や「記念式典」に参加させていただき、秋篠宮皇嗣殿下・同妃殿下との御交流、第44回全国育樹祭大会会長賞と公益社団法人国土緑化推進機構理事長賞の受賞など、大変貴重な体験をする機会を賜りました。公益社団法人北海道森と緑の会をはじめ北海道庁など、全国育樹祭関係者の方々には感謝を申し上げます。

これからも子ども達と一緒に、緑豊かな故郷・長沼、北海道を創ることを目指して植樹活動を続けてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

Contents

04 第44回全国育樹祭を振り返る

本場の〈木育〉を発信

07 山を買って、教えてもらったこと

來嶋 路子さん

08 「あれも木育、これも木育」
活動の要は木育マイスター

全国育樹祭で弾み。広がる〈木育〉

10 Green Report～緑化だより

北海道森と緑の会と一緒に緑化活動に励む
元気で活発な団体や事業をご紹介します。

12 令和3年度
緑化活動啓発作品コンクール入賞者

12 令和3年度
北海道森と緑の会 活動報告

14 山を育てる仲間たち

15 緑の募金インフォメーション

編集 株式会社アドバコム

Art Director 加藤大幸
二本柳燎

Writer 鶴見裕子(タオ)